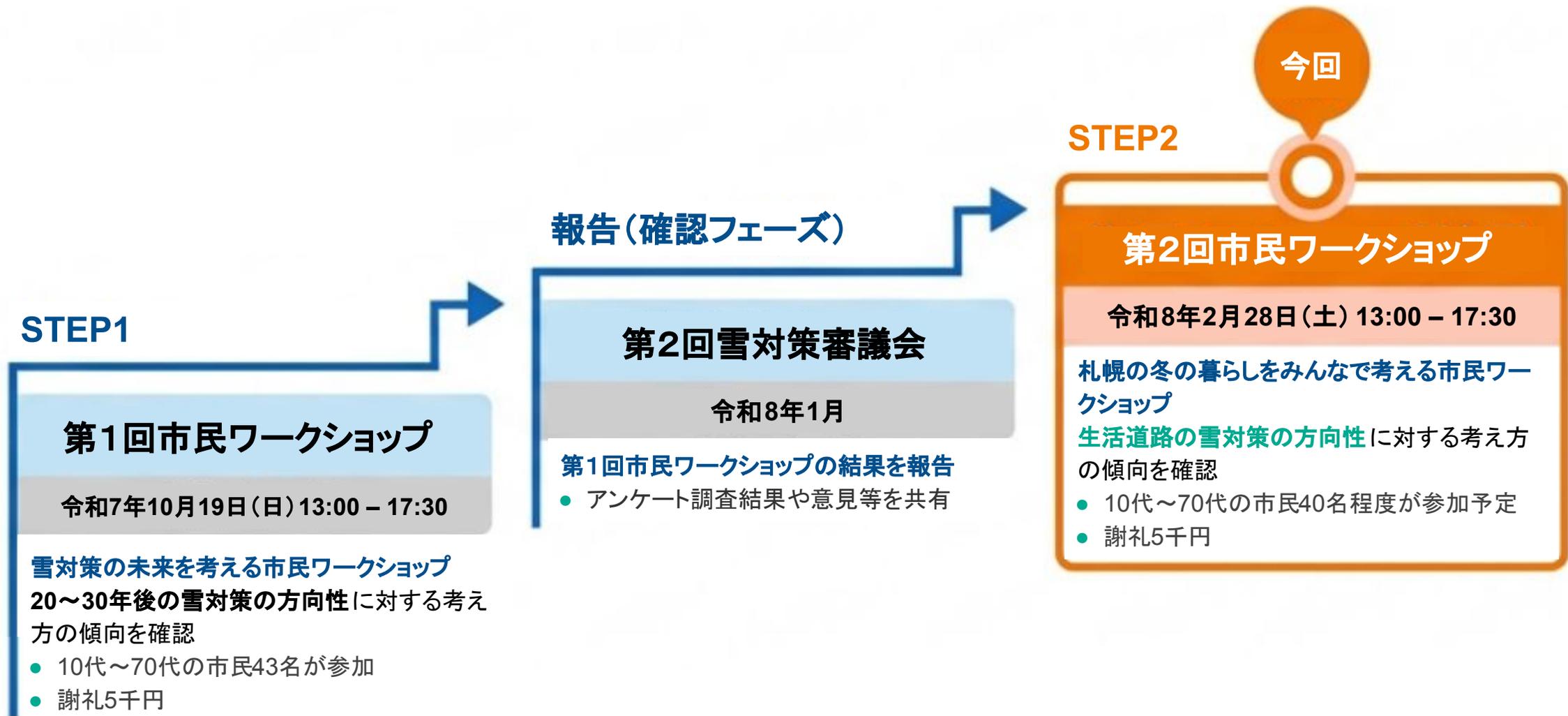


## 第2回市民ワークショップの目的と位置付け

雪対策に関する意見集約と多様な議論を引き出す議論のフレーム※の構築を目指す



※札幌版議論のフレーム : ①共通土台の形成→②価値の共有→③選択肢について考える→④方向性と条件の具体化→⑤成果の確認と引き渡しの5ステップ  
多様な意見を効果的に引き出し、市民と行政が協働して複雑な問題を解決すること、今後も市政に参加したいと思える満足度の高い対話の機会の創出を目指す

# 申込状況

## 若年層や現状に課題を感じる方々から高い関心

### 概要

無作為抽出により選出された札幌市民3,000名へ案内を送付し、10代～70代の市民104名から申し込み

- 10代が全体の34.6%
- 長く積雪寒冷地に住んでいる方が中心
- 冬期道路環境に不満を持つ方が約5割
- 日頃から雪対策に関心がある方が約3割

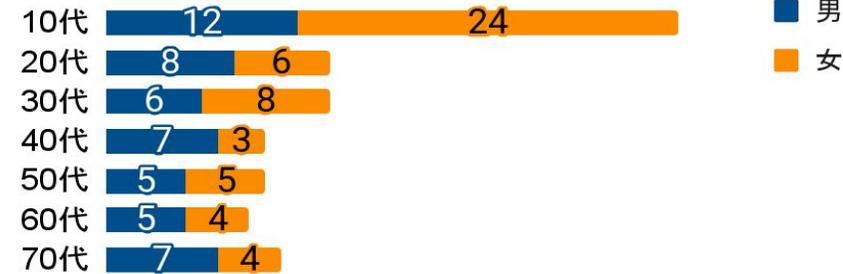
### 16歳以上を対象を拡大

- 10代の申し込み36名のうち29名が高校生
- 10代の申込率は5.2%  
※前回は1.4%
- 高校生の応募理由はWSへの興味(24.1%)と謝礼がある(24.1%)が中心

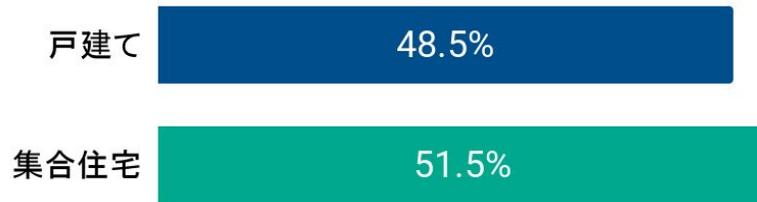
「潜在参加層」の掘り起こしに効果がある可能性

### 属性

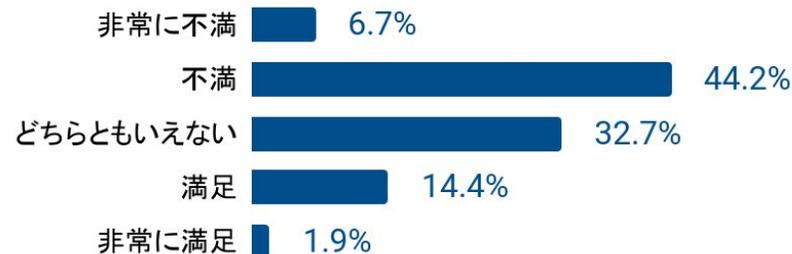
年代・性別(人)



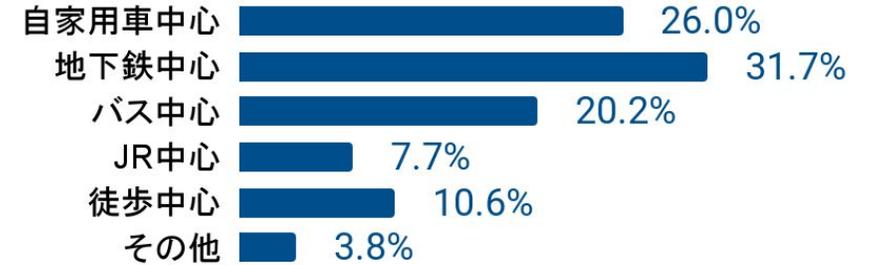
居住形態(n=103)



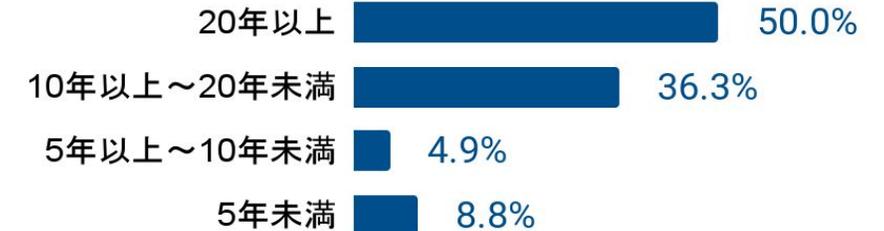
冬期道路環境への満足度(n=104)



冬の主な移動手段(n=104)



積雪寒冷地での居住年数(n=102)



応募理由(n=103)



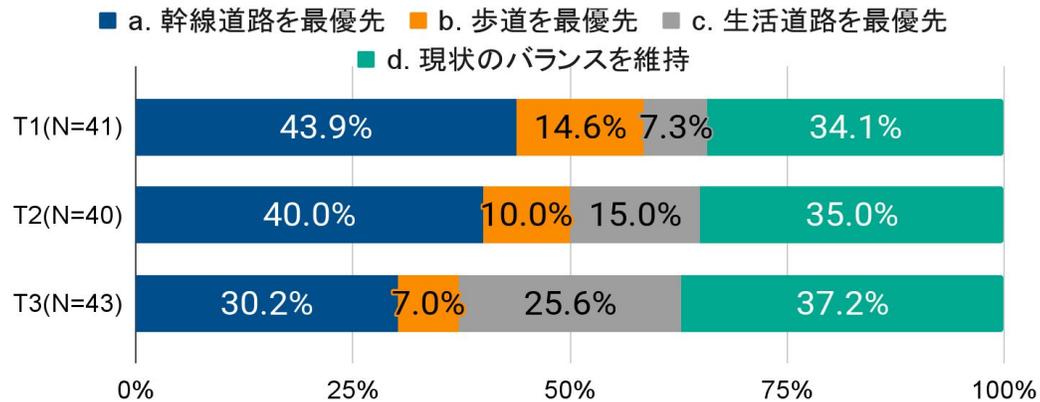
## 生活道路の雪対策の議論に向けた論点整理

### 背景と課題

- 生活道路の雪対策は市民の関心が高いことに加え、将来的な担い手不足や財政制約などによる影響が課題となっている
- 現行のパートナーシップ排雪制度は申込制であるため、実施地域と未実施の地域(全体の約3割)がある

第1回市民ワークショップでは議論を経て、意識・行動変容への支持が確認された一方、生活道路への資源配分を求める意見が強まった

#### 雪対策の資源配分の考え方(択一)



生活道路の雪対策の方向性の確認や具体化を図る必要

### 論点の整理

#### ① 生活道路の雪対策について、どの方向性で進めていくのがよいか

- 生活道路の雪対策に関する4つのシナリオを比較し、各シナリオに内包されるトレードオフを踏まえたうえで、どの方向性が支持されるかを確認する

#### ② 冬の生活道路の環境について、何を大切にしたいか

- 雪対策において何を重視したいか、冬の生活道路の環境に具体的に何を求めるか等、雪対策の方向性を判断するための考え方を確認する

#### ③ 行政と地域がどのように役割分担を行いながら進めるのがよいか

- 限られた資源の中で雪対策を進めていくためには、地域との協力が不可欠であるため、行政と地域の役割分担や協働のために必要な地域支援メニューについての考え方を把握する

## 持続可能な雪対策に向けた優先事項と負担の共有

### テーマ(論点)

対応する問い ※アンケート調査に質問を設ける

#### ① 生活道路の雪対策について、どの方向性で進めていくのがよいか



- Q①: 4つのシナリオ(A~D)への賛成度(各7段階)
- └ A.PS排雪水準の公共排雪(サービス水準の向上)
  - └ B.PS排雪を継続(現行制度の継続)
  - └ C.水準を抑制した公共排雪(サービス水準の抑制)
  - └ D.除雪のみで対応(排雪の見直し)

Q②: 最も支持するシナリオ(A~Dから1つ)

Q③: シナリオのうち最も受け入れにくいトレードオフ(1つ選択) ※資料P5参照  
└ 公共支出の増加等 / 地域負担等の継続 / 譲り合いが基本 / 脇道に残る雪山等

#### ② 冬の生活道路の環境について、何を大切にしたいか



Q④: 生活道路の雪対策で重視すべき点(各7段階)

- └ 持続可能性 / 公平性 / 市民負担 / 移動の円滑さ

Q⑤: 生活道路の冬季道路環境で優先すべき項目(1つ選択)

└ すれ違いのしやすさ / 路面状態(凹凸・わだちの少なさ) / 除排雪作業の待ち時間の短さ / 地域差の縮小 / その他

#### ③ 行政と地域がどのように役割分担を行いながら進めるのがよいか



Q⑥: 生活道路の雪対策の役割分担への考え方(7段階)

└ 1.行政が中心 ← 4.行政と地域で分担 → 7.地域が中心に担う

Q⑦: 優先して充実させるべき地域支援メニュー(1つ選択)

└ 雪置き場の確保 / 除雪用具の貸し出し / 融雪設備の設置に関する支援 / 除雪ボランティア支援 / 除雪マッチング支援 / 除排雪体制の確保 / その他

Q⑧: 地域の生活道路の雪対策の取組に協力したいと思うか(7段階)

## 4つのシナリオ

### 対話のための4つのシナリオ

#### A. PS排雪水準の公共排雪

地域の負担をなくし、全ての生活道路で現行のパートナーシップ排雪と同程度の水準を目指す。

トレードオフ: 公共支出の増加や他の公共サービスの見直し

#### B. PS排雪を継続

地域と行政が費用と役割を分担する現行のパートナーシップ排雪を維持する。

トレードオフ: 地域負担と地域差の継続

#### C. 水準を抑制した公共排雪

地域の負担をなくし、全ての生活道路でパートナーシップ排雪よりも水準をやや抑制した排雪を実施する。

トレードオフ: シーズン中は道の譲り合いが基本になること

#### D. 公共除雪のみで対応

生活道路の排雪を廃止し、除雪・路面整正を中心とし、地域での支え合いによる排雪に資源を配分する。

トレードオフ: 脇道に残る雪山やさらなる暮らし方の工夫



各シナリオの特徴を理解しやすくするため、次の4つの指標を補助的に用いる予定

①持続可能性(除排雪体制・財政)、②公平性(地域格差)、③市民負担(金銭面・労力)、④移動の円滑さ(すれ違いやすさ・路面状況)

サンドイッチ構造 ※1とハイブリッド対話 ※2を組み合わせることで多角的に議論

13:00—13:40	13:40—14:55	14:55—15:30	15:30—16:55	16:55—17:30
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------



全体説明・情報提供



同世代ディスカッション



休憩・質疑応答等



多世代ディスカッション



振り返り

情報提供の前後で  
T1・T2アンケートを実施  
※3

人口減少、財政状況、雪対策の現状と課題、生活道路の排雪について情報提供(事前資料を別途1週間前に送付予定)

未来・理想の共有

世代毎に雪のある暮らしのプラスとマイナス面を共有し、理想像をまとめてグループ発表

参加者からの質問に対する回答及び後半の議論に向けた論点の確認

制約等を踏まえて議論

各世代の意見を持ち寄り、4つのシナリオの支持理由や市民が協力できること等をまとめてグループ発表

議論後にT3アンケートを実施※3

世代毎に異なる価値観や制約を踏まえた議論の結果を収集

※1 サンドイッチ構造:参加者の自由な発想を尊重しつつ、正確な情報を提供し、制約と向き合ったうえで、現実的な方策を考えるプログラムの構成

※2 ハイブリッド対話:同世代で生活実態やニーズを共有した後、多世代の異なる価値観をすり合わせ、多角的な視点から課題を捉える対話の手法

※3 アンケート調査:情報提供前(T1)、情報提供後(T2)、議論後(T3)の3回の調査により意識の変化を測定